

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000041		
法人名	(株)コウケンパートナーズ		
事業所名	グループホーム アクア		
所在地	山口県光市木園1丁目4番5号		
自己評価作成日	平成25年2月15日	評価結果市町受理日	平成25年6月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年 3月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは街の中心地にあり、医療、買い物と便利の良い環境にあります。さらに、自然にも恵まれホーム裏の河川には、野鳥や魚がおり、散歩で訪れたりと情操的にも良い環境です。また、関連のスポーツジムにてマシン等を利用して筋力防止に努める事が出来ます。
ホーム内では、入居者様と職員と一緒に楽しく過ごすことが多くあり、明るい雰囲気です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

調理担当の職員を確保しておられ、三食とも事業所で食事づくりをされています。利用者の希望や好みを聞かれて献立を作られ、地元の新鮮で旬な食材を使用した食事を提供しておられ、職員も利用者と同じものを食べて、その時々話題に触れて話しかけながら利用者が楽しくおいしく食べられるように支援しておられます。寿司や和定食を食べに出かけたり、喫茶店やホテルでティータイムを過ごされたり、おやつづくりを楽しまれるなど「食」を通じてのいろいろな取り組みをされています。利用者は地域の行事に参加させて頂いて交流されたり、川の鯉の餌やりや、兎の餌やりや兎小屋の掃除、テレビ視聴、カラオケ、体操(リハビリ体操、ワハハ体操など)編み物、縫い物、洗濯の一連の作業(干す、取り入れる、たたむ、仕分ける、それぞれの居室に運ぶ)など、利用者一人ひとりが楽しめたり、活躍できる場面を工夫されて、よここびや張り合いのある日々が過ごせるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で「地域の中で」「今を楽しく」「家族に安心を」その理念を実現させる為に方針を決め職員全員で共有し実践できるように取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、事業所内の職員が常に目にするところに掲示し、ミーティングの中で年1回確認して全職員で共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、総会やクリーン作戦に参加し、夏には盆踊り、年末には餅つきやしめ縄作り等にも参加して地域の行事で交流を深めている。	自治会に加入し、地域の清掃作業に職員が参加する他、地域の行事(盆踊り、餅つき、しめ縄づくりなど)に利用者も参加して交流している。ボランティア(歌、楽器演奏)の来訪がある。顔馴染みになった近所の人から散歩の途中で果物や野菜をもらうこともある他、消防の出初式の見学の時の幼稚園児との交流や餅つきに参加する子供たちとの交流を楽しみにしているなど地域との付き合いが深まるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、毎回地域の自治会長や地域の方や認知症を支える会に参加して頂いており、その中で認知症への理解や支援について議論することがある。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年の外部評価結果を頂き大変勉強になり、具体案を職員全員で考え具体的な改善に取り組んだ。	管理者が評価の意義について説明し、職員は理解した上で、項目を分担して全職員で記入した後でミーティングで話し合い、管理者がまとめている。自己評価を通じて、家族の参加できる行事の取り組みとして、季節ごとの花見の回数を増やすことを検討している。前回の外部評価結果についてはミーティングで話し合い、避難訓練に地域住民の参加が得られるようになるなど、具体的に改善している。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開催して自治会長の参加や、地域の消防団や老人会、またご家族代表、認知症を支える会の参加で、貴重な意見を頂き、サービス向上へ反映出来るように取り組んでいる。	新たなメンバーとして老人会や地域消防団員の参加を得て2ヶ月に1回開催している。事業所の状況や活動などについて報告し意見交換している。前回の外部評価結果について報告し、地域との協力体制について話し合い、避難訓練への地域住民の参加や地域消防団の参加を得ることなど、意見をサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の包括支援センターの担当者に毎回出席して頂いており、施設の実状等を詳細に報告して意見も頂いている。協力関係は十分に築いている。	市担当課とは電話や出向いで情報交換をする他、運営推進会議に市の地域包括支援センター職員の参加があり、連絡を密に取り、協力体制を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ドアは道路に面し交通量が多く安全確保のため、また施設自体、電子ロックシステムとなっているが、施錠開放日を設けている。	市主催の研修会への参加や内部研修で身体拘束について学び、職員は理解して拘束をしないケアに取り組んでいる。月に1～2日、施錠開放日を設けているが、安全確保のために玄関は施錠している。	・鍵をかけない工夫
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、研修や勉強会を実地して虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では関係する方はおられません。学ぶ機会を持ち理解し、活用できるように支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族に対し十分な説明を行い理解、納得して頂いたうえで契約等を行う。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の声はいつも聞き、運営に反映させている。また、ご家族からの意見、要望は面接時に聞いたり運営推進会議でも頂いたりと運営に反映するよう取り組んでいる。	面会時や電話、運営推進会議時、家族参加行事の後などに、家族から意見や要望を聞いている。家族の参加できる行事を増やして欲しいという意見を反映させている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員全体の職員会議を開催し発言の場を設けている。また、意見や提案があれば話し合いをしたり連絡帳の活用等で対応し反映出来るように努めている。	毎月の職員会議や朝、夕の申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設ける他、職員間の連絡帳に記録できるようにしている。加湿器の火災のニュースから防災についての見直しなどの意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を反映し必要な福祉道具等を積極的に取り入れて職員が対応しやすいような方法を取り入れている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や施設内での勉強会を行う機会を確保している。	外部研修は情報を職員に伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講者はミーティングで復命報告をし、研修資料を閲覧できるようにして共有している。内部研修は年間計画を立て、ミーティングの中で、管理者が講師を務め、30分程度実施している。新人職員には業務の中で職員が付いて指導し、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が施設外研修や地域ケア部会に参加する機会を得てサービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを通じて本人の思いを引き出し、それぞれに対応した支援をしていくことで安心して生活して頂けるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に先だって時間を取り御家族の思いや入居者様の様子を聞き安心して入所できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にアセスメントをしご本人の思い、情報を取り入れることにより今、何が一番必要な支援かを考えだすようにしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に受け身の支援ではなくご本人が出来ると思われることは本人に任せて頂いたり又、出来ない事や難しい事については職員と一緒にを行うようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時にはホームでの様子を話したりホーム便りの発行により常に御家族に様子がわかるようにしている。又、来所の際には、要望等を聞いたりしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所はふるさと巡りでドライブなどをしながら通りその頃の思い出話を聞いたりしている。	元職場の同僚や身内の来訪がある他、自宅周辺や神社など馴染みの場へのドライブ、家族の協力で外泊や外食、散歩、墓参り、法事への参加など関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ性格も違うので合う合わないがあるがなるべく職員が間に入るようにし会話等を取り持つようにし、出来ない方へは出来る方が手を貸してあげるような声掛けをしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後もご家族様に会うことがあれば様子をお聞きしている。また、必要があればいつでも相談に応じるよう声かけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を送る中から会話等を通して本人の思いを把握するようにしている。困難な場合は本人に一番合った方法を見つけ職員は統一した対応で支援している。	入居時の基本情報や生活歴シート、センター方式のシートを活用する他、日常会話や行動を個人の経過記録に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から聞きとる他、ミーティングで話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にアセスメントをして情報を取り入れている。また、入所後も御本人やご家族様からも話を聞いて把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録を記入したり又それを確認して毎日の状態を把握している。勤務に入る前には必ず引き継ぎ、申し送りをして様子が分かるように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスを開いて課題やケアの方法について話し合っている。御家族様とはケアプランについて担当者会議を開催して話し合いをしている。ご家族様からも意見を頂いて参考にしてしている。	本人の意向や家族、医師の意見を参考にして、月1回のカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。生活記録表に実施状況を記録し、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、期間に応じた見直しや、利用者の状態の変化に合わせて計画の見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を記入することによって情報の共有化を図るとともに問題点があれば記入してもらいケアプランを作成する時の参考になっている。状態に変化があった時にはその都度ケアプランを変更し支援を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同系列でスポーツジムがあるので利用できる時には利用し、トレーニングを行い筋力低下の防止に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として地域で開催される行事に参加させて頂いたり、ボランティアによる音楽や踊りも開催して楽しむことができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族との相談で、提携病院やかかりつけ医、専門医での適切な治療が受けられるよう診療支援をしている。	利用者のそれぞれのかかりつけ医や協力医療機関への受診の支援をしている。かかりつけ医や協力医療機関の看護師の訪問があり、利用者の健康管理や相談への対応などしている。他科受診の支援や緊急時の対応など適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に変化等があった場合は提携病院の看護師へ報告、相談は徹底しており、適切な受診や治療を受けられるよう支援している。又、週2回看護師が往診に来られる際入居者様の状態を相談し対応をいただいている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院や急変時に備えて病院関係者とともに円滑な対応が出来るような体制作りに取り組んでいる。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の家族等と話し合いを行い事業所で出来ることを十分に説明し提携病院医師からの指示等で支援に取り組んでいる。	契約時に事業所でできる対応について口頭で家族に伝えている。実際に重度化した場合は、医師、家族、関係者で話し合い方針を共有して支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止や事故発生時等の勉強会を行ったり、研修に参加している。又、毎日の朝の体操で下肢の筋力低下防止や嚥下体操にて誤嚥防止に努めている。	ヒヤリハット事故報告書に記録し、対応策を検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。AEDの使い方を学ぶ他、実際に発生した感染症に全職員で対応した体験が学びとなっているが応急手当や初期対応の訓練はしていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市では24時間対応出来る体制があり、又、自治会に協力して頂けるような体制は依頼してある。訓練では地域の消防団や自治会の方も協力、参加して頂いている。	年2回、昼夜を想定した火災時避難訓練を実施している。1回は消防署の協力を得て行い、地域住民が参加している。1回は地域消防団の協力を得て実施している。事業所の緊急連絡網の中に自治会長や消防団長が加入しているなど地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の目線と同じ位置で話をし、言葉掛けは命令口調にならないよう気をつけている。排泄などについては本人の自尊心を傷つけないような配慮や声かけを行う。	ミーティングの中で利用者の尊厳を大切にすることを話し合い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。不適切な声かけなどに気づいた時は、管理者が注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いなどが言いやすい雰囲気作りをする事により自分でしたい事が自由に出来るような支援をしている。また、自分でうまく言い出せない方には、スタッフ側から働きかけて本人の思いをくみ取るようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の状況に応じて何がしたいのか聞いて支援している。また、本人のペースに合わせて無理のないように出来るだけ希望に添って支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着は自分で選んで着て頂いている。自己選択出来ない方はスタッフと一緒に選ばれ更衣して頂いている。また、訪問理美容を利用しパーマや毛染めなど本人希望でされ、おしゃれを楽しんでおられる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせた調理、配膳、下膳等、出来ることをして頂いている。	調理担当職員を5名確保し、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者の好みや希望を取り入れた献立で新鮮な旬の食材を使用したものを提供している。利用者は盛り付けや配膳、テーブル拭き、下膳などできることを職員と一緒にしている。利用者とは同じテーブルを囲み、同じものを食べながら話し、職員は利用者が楽しく食事ができるように支援している。おやつづくりや外出(寿司や和定食など)、喫茶店やホテルに出かけるなど「食」を通じていろんな取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく食事が摂れるよう献立を考えカロリー、食事量、水分量も管理し記録に残している。また、食事の形態も個人に合わせて食べやすいように工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、口腔ケアの声かけをする事により清潔を保つようにしている。また、自分で出来ない方にはスタッフの介助により口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに排尿、排便表を掲げており、介助の必要な方へは時間誘導を行っている。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、一人ひとり合わせた声かけや誘導でトイレで排泄できるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送り時に排便状況を必ず次勤務者に送り把握している。また、運動や牛乳を提供したり水分量にも注意して支援している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴としているが湯量の関係で一日4～5人程度の入浴となっている。また、入浴剤やボディローションを使用し入浴が楽しめるよう支援している。	入浴は毎日、13時30分から15時30分まで可能で、利用者が状態や希望に合わせてゆっくり入浴できるように支援している。入浴剤や入浴後にボディローションを使用して、入浴が楽しめるように支援している。入浴したくない人には、タイミングをみたり、声かけに工夫して支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて居室での休息を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ごとに服薬管理ファイルがあり理解している。誤薬防止の為、薬をセットする者、服薬支援する者と変え、二重チェックして誤薬防止に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力量に合った家事参加を依頼している。又、ペットのお世話など自分の役割を持って頂き、定着している。	地域行事の参加やテレビ視聴(水戸黄門、新婚さんいらっしゃい、歌番組、スポーツ番組など)、新聞や週刊誌を読む歌を歌う、カラオケ、習字、ぬり絵、編み物、リハビリ体操、ワハハ体操、口腔体操、兎の世話(餌やり、小屋の掃除)、鯉の餌やり、掃除、洗濯物の一連の作業(干す、取り入れる、たたむ、仕分ける、居室に運ぶ)など、楽しみごとや活躍できる場面を多く作り、張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やドライブに出かけておりホームの近くを散歩をしたり野鳥の訪れる河川を散策している。地域行事にも参加をして地域の方に協力をして頂いている。	事業所周辺の散歩や近くの川にいる鯉の餌やり、季節ごとの花見、外食など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は苑で管理をしている。個人が必要な物や欲しい物は一緒に買い物に出かけて購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自ら電話が出来るように支援している。手紙や年賀状のやりとりもされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良く生活出来るように加湿つきの空気清浄機を設置し温度湿度を管理し、季節感を感じることで出来るようなコーナーを作っている。	広い窓から川沿いの桜並木や行き交う人たちの姿を眺めることができる。共有空間は明るく、テレビ、テーブル、椅子、ソファを配置し、季節の花が生けてあり、壁面には季節に合わせた飾りや行事の写真を貼ってある他、季節ごとの飾りをするコーナーを設け、雛飾り、五月人形、七夕、クリスマス、しめ縄などを飾り、季節感を取り入れる工夫をしている。キッチンから調理の音や匂いがして生活感もある。温度や湿度、換気、音などにも配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではテーブルとソファを設置し一人で過ごしたり仲の良い仲間でも過ごせるような空間になっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の好みのものを持ち込んで頂き快適に居心地良く生活出来るように工夫している。	テレビ、小ダンス、衣装ケース、布団、衣類、ぬいぐるみなど使い慣れた物や好みの物を持ち込み、家族の写真やカレンダーを飾って、安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事は可能な限りして頂き、トイレ、廊下、浴室に手すりを設置し安全かつ自立した支援をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームアクア

作成日：平成 25年 6月 24日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	応急手当や初期対応の訓練が確立されていない。	応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	当ホームにおいて消防署による講習の実施 簡易救急講習等、年1回の実施を目標とする。 又、実施後も定期的に学習内容の確認を行う。	1年
2	7	玄関前の通りは交通量が多く、安全のために玄関を施錠している。	施錠をせず安全確保に努め、開放感を得られるようにする。	玄関は開放し、内ドアにセンサーを設置して人の出入りが把握できるようにし、外出したい方には職員が付き添い開放感を得られるよう対応をはかる。	半年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。